



スマホ
クリエイターズ
Lab. 東海村

まち、キリトル。

スマホ
クリエイターズ
labについては
こちらから





奥が深いSNS発信

参加してみても感想

情報発信を学ぶ講座はあまり無いので、魅力的に感じます。note向けの文章を書くのは、はじめてのため、PCやスマホ上で読みやすい記事を書くのが大変でしたが、とても良い経験になりました。写真や文書など、SNSの魅力的な発信は奥が深いですね。

取材したところ／取材先のPR

澤橋製作所

昭和48年創業の鋳物工場が、「一般の人にも楽しめる器を」と開発したのは、鋳（す）という柔らかい金属を使ったタンブラーや酒器、通常の鋳物づくりと「逆転の発想の連続」だったという試行錯誤の末、完成した製品は「常陸鋳器（ひたちすき）」と名付けられました。金属は硬いという常識を覆した常陸鋳器は、現在、東海村を飛び出して県内外に広まりつつあります。

東海村を面白くするならどんなこと？

「場づくり」をしたい人が、地域でイベントをつくる人から話を聞いて学べる講座があったらいいなと思いました。



柴田亮子



富永寧

参加してみても感想

自分で取材や執筆をしてみても分ける難しさがありました。時に失敗に感じても、とにかくやってみて吸収してみることが大切だと感じる経験でした。

取材したところ／取材先のPR

まさきや釣具店

全盛期には15歳を超える舟でサケ漁を行っていたという「まさきや」、先代の義娘の敏子さんは、現在、川を登ってくるサケの減少を肌で感じながらも懸命に店を切り盛りしています。商品の仕入れ価格高騰など厳しい状況は続きますが、一方でコロナ禍以降の釣り人口増加も実感していると話す敏子さん。県内外から繰り返し足を運ぶお客さんに支えられ、今日も店を開けます。

東海村を面白くするならどんなこと？

知っているはずの人や場所でも、実際に話を聞いてみると自分の知らない一面が見えた気がします。「知る」とはもっと東海村を好きになるための入り口になると思います。



知れば、もっと好きになる

仲間との出会いが刺激になる

参加してみても感想

自分でSNS発信をしたことがなかったため、一緒に受講したメンバーが講座後に、自身のSNSで発信する様子を見てとても刺激を受けました。年齢もバックボーンも違うメンバーで活動できるのは良いですね。

取材したところ／取材先のPR

こども食堂はぐもぐ

2022年夏に発足したばかりのボランティア団体が運営するこども食堂。数か月ごとに村内のコミュニティセンターなどでお弁当のテイクアウト販売を行っており、お弁当は子どもに限らず誰でも購入可能です。「はぐもぐ」の由来は「優しくハグをするように子どもたちを包みこむ」、ご飯をもぐもぐ食べて元気に家に帰ってもらいたい」という想いから。「今日はこども食堂の日だから行ってみよう！子どもたちにも思ってもらえるような、落ち着ける場所をつくりたいです」とお話してくださいました。

東海村を面白くするならどんなこと？

実はこんなことがある、こんな人がある、といったちょっと埋もれがち、でも大事なものを取材、発信して気づきを共有したいです。



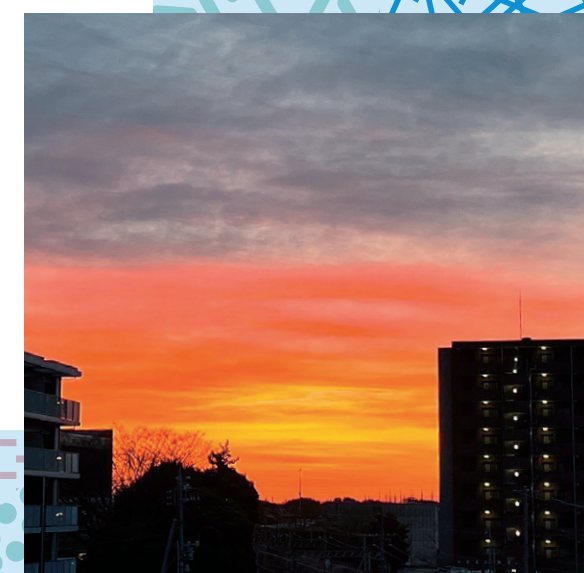
田中克明



得意な写真で
力になれた

参加してみても感想

講座の内容やSNSの使い方は難しく感じましたが、得意な写真で役に立てたことがよかったです。



スマホクリエイターズLab.東海村

スマホクリエイターズLab.は、T-projectから生まれた「住民による東海村の魅力発信プロジェクト」。自分のまちを「もっと知りたい、伝えたい」という思いが東海村の新しいメディアになりました。住民ライターがキリトル、東海村の今を発信しています。

塩田ひとみ



参加してみても感想

自分ひとりで学ぶのは難しい内容も、講師の先生や、一緒に受講する仲間と一緒に段階を踏んでクリアすることで、とてもよい学びになりました。自分が発信した内容に反応が貰えたのも励みになります。

取材したところ／取材先のPR

鈴木ハーブ研究所

「鈴木ハーブ研究所」は東海村にある化粧品メーカー。会社のはじまりは、鈴木社長がかつて幼い娘の肌荒れに心を痛めて、天然成分を使った化粧品を手作りしたこと。当時、物置の一角からはじまった化粧品づくりは、自分や家族に肌の悩みを持つ人たちの支持を受け、現在の会社の姿となりました。社長が子育て中に創業をした経験から、誰もが働きやすい環境づくりに力を入れている会社でもあります。

東海村を面白くするならどんなこと？

東海村のイベントを取材して発信するなど、私たちが長期的なチームとして広報の活動ができればいいと思います。



やすだゆいな



鈴木ハーブ研究所

夢は、おいしいお店MAP。
東海村での「発見」を発信したい



参加してみても感想

取材した方から「私のお店のことを知ろうという気持ちが伝わってきて話しやすかった」と言われた時は、インタビューの仕方を学べて本当に良かったうれしくなりました。

取材したところ／取材先のPR

劇団とみかる

「劇団とみかる」は「東海村にミュージカルの楽しさを伝え、その文化を根付かせよう」と活動する住民劇団です。東海村に伝わる民話をもとに作品を公演するなど、地域に根ざした活動を続けています。現在、子どもから大人まで15名が在団し稽古に励んでいるとみかる。団長の浅利さんは「団員の子どもたちが将来、とみかるで学んだことを活かして夢をつかんで欲しい」と願いを語ってくださいました。

東海村を面白くするならどんなこと？

講座に参加したきっかけは、趣味の飲食店めぐりをSNS発信に活かすため、在村1年めの私にとって、仲間から聞く東海村の情報は発見の連続で、講義の度に東海村への興味と愛情が深まってきました。まだまだ知らない場所を訪ねて「おいしいお店MAP」を作ってみました。



花島絵美

藤田慎司



東海村への想いに、
温度が生まれた

参加してみても感想

ずっと「東海村＝職場」でしたが、活動を通して東海村に対する感情のスイッチが入ったよう。村に対する温度が生まれました。自分の想いの変化に感動しています。

取材したところ／取材先のPR

KUROMATSU COFFEE

広い芝生広場が気持ちのいい「歴史と未来の交差点」。その一面にある「クロマツコーヒー」が目指すのは、散歩の途中や子どもと一緒に、普段着で気軽に立ち寄ることが出来るコーヒースタンドです。家族が飲んでいたコーヒーの香りが、子どもたちが村で過ごした歴史と未来を繋ぐかもしれない。店長の川崎さんは、今日も地域のお母さんとしてみんなを迎えてくれます。

東海村を面白くするならどんなこと？

学生大会の優勝者やインフルエンサーなど、村内在住の10代～20代にも話を聞いてみたい面白そうですね。最初は、SNSの投稿ボタンに緊張していましたが、今ではもっと発信を続けてみたいと思っています。



遠藤加南子



自分では気づけなかった
視点を知ることができた

参加してみても感想

「どうすれば読んでくれる人取材先の思いや雰囲気は伝わるのか」を考えるのは大変でしたが、書き上げた後は、大きな達成感がありました！

取材したところ／取材先のPR

Hug.Hug.Sandwich

神社仏閣が立ち並ぶ村松地区で、ひときり目を引くお洒落な白いコンテナハウス。中に入ると、色とりどりのサンドイッチが迎えてくれます。「Hug.Hug.Sandwich」は2021年にオープンしたばかりのサンドイッチ専門店。「色々な人に支えられて今があるんです」とはほえむ店主の由紀さんは、「お客さんにほっとしたひと時を過ごして欲しい」とお店への想いを語ってくださいました。

東海村を面白くするならどんなこと？

東海村在住ですが、これまで村内の人とのつながりをあまり持っていませんでした。今回、一緒に学ぶ仲間たちとの何気ないやりとりがとても楽しく、これを機に村内の人との輪を広げたいと思いました。



スマホ
クリエイターズ
lab.については
こちらから